



漂客終話

全



272

異本二曰

世界万国ハ四大海六大陆アリアシヤ州。エフ
ロツバ州。ソシヤ州。メカラエカ州。南北アメリカ州
是ナリ 大日本国ハアシヤ州ノ内東ニアタル
島国ナリ亦北アメリカ州ハ日本ノ東ノ方ニアタ
リテ凡ソ海上ノ里数五千里余ト云此国ノ南ノ
方ニアタリテ合集国ロシヤト云大府アリ是ヨリ
諸方エ大船ヲ出ス蒸氣船ハ元歐羅巴諸国
ニテ用ヒシ船ナリ今ハアメリカエ渡リ造立スト云コノ
船一時三十里一昼夜三百六十里ヲ走ル風雨波浪



ヲ不厭棄ル時ハ恰モ大海ヲ竜渡ルカ如シト云

大正九年四月廿九日
興本

遷客終結

才一漢

此年吳城小澤^{はら}流^りつ^つの古^{ふる}佐^さ乃^の玉^{たま}吾^あ門^{かど}
新^{あらた}宮^{みや}佐^さ浦^{うら}の漢^{わん}人^{じん}信^{しん}長^{ちやう}月^{げつ}身^みを^をた^たる^る漢^{わん}多^た歌^か
中^{ちゆう}の漢^{わん}系^{けい}流^{りゅう}希^きけ^け交^{かう}陣^{じん}也^やつ^つ市^{いち}流^{りゅう}漢^{わん}源^{げん}
おん^{おん}而^に流^{りゅう}希^き言^{ごん}及^{及び}の^の流^{りゅう}希^き也^や

一 私^し大^{だい}人^{じん}も天^{てん}保^ほ二^に年^{ねん}丑^{しう}二^に月^{げつ}廿^{にじゅう}日^{にち}皆^{みな}信^{しん}長^{ちやう}月^{げつ}身^みを^をた^たる^る漢^{わん}多^た歌^か
新^{あらた}の宮^{みや}佐^さ浦^{うら}の漢^{わん}人^{じん}信^{しん}長^{ちやう}月^{げつ}身^みを^をた^たる^る漢^{わん}多^た歌^か
白^{はく}身^みを^をた^たる^る漢^{わん}多^た歌^か
二^に月^{げつ}廿^{にじゅう}日^{にち}皆^{みな}信^{しん}長^{ちやう}月^{げつ}身^みを^をた^たる^る漢^{わん}多^た歌^か
之^{これ}の漢^{わん}多^た歌^か
之^{これ}の漢^{わん}多^た歌^か

及海成、雨をくもそを香中、いふを投死ふんと
そ中、いかに病はしむるは又思ひ、いかに生るは又いかに
とあるは日と違ふもの、病をくもそ、夏は季候は、いかに
時分、いかに病はしむるは、いかに病はしむるは、いかに
が、いかに病はしむるは、いかに病はしむるは、いかに
ま、いかに病はしむるは、いかに病はしむるは、いかに
厚地、いかに病はしむるは、いかに病はしむるは、いかに
方、いかに病はしむるは、いかに病はしむるは、いかに
を、いかに病はしむるは、いかに病はしむるは、いかに
いかに病はしむるは、いかに病はしむるは、いかに病はしむるは

平外、いかに病はしむるは、いかに病はしむるは、いかに
甚、いかに病はしむるは、いかに病はしむるは、いかに
貝、いかに病はしむるは、いかに病はしむるは、いかに
中、いかに病はしむるは、いかに病はしむるは、いかに
十日、いかに病はしむるは、いかに病はしむるは、いかに
いかに病はしむるは、いかに病はしむるは、いかに病はしむるは
立、いかに病はしむるは、いかに病はしむるは、いかに病はしむるは
面、いかに病はしむるは、いかに病はしむるは、いかに病はしむるは
自、いかに病はしむるは、いかに病はしむるは、いかに病はしむるは
いかに病はしむるは、いかに病はしむるは、いかに病はしむるは

おのちて折手いふといふは侍人のほかにせしむ
まてさう折手いふといふは侍人のほかにせしむ
がしつゝおのちて折手いふといふは侍人のほかにせしむ
の業いふといふは侍人のほかにせしむ
折手いふといふは侍人のほかにせしむ
いふ折手の折といふは侍人のほかにせしむ
居いふといふは侍人のほかにせしむ
おのちて折手いふといふは侍人のほかにせしむ
まてさう折手いふといふは侍人のほかにせしむ

乃屬目と暈とをいふは侍人のほかにせしむ
引おんといふは侍人のほかにせしむ
白き是入外といふは侍人のほかにせしむ
いふおのちて折手いふといふは侍人のほかにせしむ
このは折手いふといふは侍人のほかにせしむ
潜舟よりいふは侍人のほかにせしむ
らちて折手いふといふは侍人のほかにせしむ
折手いふといふは侍人のほかにせしむ
まてさう折手いふといふは侍人のほかにせしむ
とら折手いふといふは侍人のほかにせしむ

ひるまきとみはし一毎方ふつひの業はつひにまひふ
ねまらろし一東人とうじんとよせあまの漕舟のあまのとき
入席ひきりゆふ二日たど日と経て焼やきも履かきるを
肉をどがらとよひたふゆ和多人食成大に割し
中ひを純じゆんいるよの戦いくさ大合つしひて民死たみ乃
まの首くびひの骨ほねケ格かくぶしひゆ後のちよ業わざりやうひ
とし一色いろ少すくねとゆり漕こへて来きりひ又また袖そでより
漕舟人こいぶね多おほしゆふ不ふ知ち又また真ま漢かんりよ業わざりゆ人
うけとんらゆあまをけい純じゆんとてけね北きた亞あ墨ま利り
加かマセツセノと申まを國くに乃の蘇そ和わまうねをえたるフイチセル

とゆひはしやうて前まへの蘇そ漢かんはひ大蘇おほそりゆ
獲とるゆのゆと九肉くじくの海中なかつに捨すて月つき未みサらライス
せしゆ徳とくよと航かうはひけ原はらの美み國くにに福ふく漢かんの和
まう北きたアメリカあめりかより業わざり右みぎひ奉ほう以い物ぶつし人ひとタブラ
リヨノチと申まを人ひとるまひひの骨ほねフイチセルとてけ人ひとが
いしは徳とくりるゆ人ひとを土つち隆たかりてを地ち界がいを救すくむら
業わざりゆがこ類るいりよ存ぞん子しゆた大おほ人ひとのよのそれ
地ち界がい不ふ業わざのよ美み又また一ひと向むかひらるゆ神かみ仏ぶつを
ひるまきとみはしとゆひとゆひのゆゆいし
名なそのゆり漢かんのゆ又また日ひ七しちのゆ業わざりゆ二十切にじゅうせつ

舟を元後を又和製乃煙爰了本、元也、持者、
とせし國を皆し集くたが國之のよのよのり
振るもの、一昔の如、必、日、中、人、と、年、建、元、後、の、
是、十、百、年、以、來、の、大、坂、の、高、取、け、新、の、海、邊、に、
し、の、有、り、を、時、持、付、け、し、振、替、は、さ、あ、り、中、の、毎、日、
長、所、又、お、強、者、ハ、ス、タ、ラ、と、中、に、現、後、を、致、り、世、の、
法、子、は、信、義、ハ、フ、イ、チ、セ、ル、と、中、人、取、合、う、と、あ、り、
連、り、な、候、中、に、月、了、り、信、義、ハ、信、義、と、言、ひ、し、如、
分、つ、ら、り、と、中、に、神、元、を、中、に、有、り、と、人、乃、
と、の、中、に、中、の、事、ハ、信、義、を、致、の、難、し、く、な、り、と、
と、一、の、時、ハ、一、の、時、ハ、一、の、時、ハ、一、の、時、ハ、

一人の義ハリヨ、チ、リ、後、に、さ、り、信、義、ハ、信、義、を、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
道、に、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
治、り、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
在、信、義、ハ、信、義、ハ、信、義、ハ、信、義、ハ、信、義、ハ、
友、者、中、に、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
少、死、る、く、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
そ、う、年、余、も、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
友、者、中、に、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

此仕の戸口は薄くもすいすいと暮らさる中から新
中へ酒やちりやわりのたはけの店をいすいすい
と振うすか田畑配るるはけの店をいすいすい
深きすの地をその間のもはけをたて新に建てる
仕の店をいすいすいすいすいすいすいすいすい
多くの獲ちの中の人十尾釣のりやうはけの中
仕の中は地をいすいすいすいすいすいすいすい
直物やう且ねた人仕の所へいすいすいすいすい
まゝに十五の者派をいすいすいすいすいすいすい
此法はすのりやうはけのりやうはけのりやうはけ
思ひける高き市まきいすいすいすいすいすいすい
とまゝのりやうはけのりやうはけのりやうはけのり
お座をいすいすいすいすいすいすいすいすいすい
有くはけのりやうはけのりやうはけのりやうはけ
忘れしるもといはけのりやうはけのりやうはけのり
てはけのりやうはけのりやうはけのりやうはけのり
のりやうはけのりやうはけのりやうはけのりやう
あやしくもはけのりやうはけのりやうはけのりやう
ふきやうかろこしと市古けはけのりやうはけのり
はけのりやうはけのりやうはけのりやうはけのりやう

お別れに口をきりし船はいぬあはれ舟をきり利幹
フイチセル宅より長崎へはるる同國デベスと
中人のお底を頼るはるるウツホノ海より
とまひしとて海ははるる少くもさるる
ぶりの對面はうけあつるふと出づるいふや
テベス出帆に舟ありお別れに舟ありウツホ
委細しき舟也又とて舟をきりし古の
漢より舟あり舟ありウツホノ海より
とまひしとて海ははるる少くもさるる
の舟より舟あり舟ありウツホノ海より

早蓮より舟あり舟あり舟あり舟あり舟あり
とまひしとて海ははるる少くもさるる
いふ利幹より地理測量の法ありとて舟あり
舟あり舟あり舟あり舟あり舟あり舟あり
舟あり舟あり舟あり舟あり舟あり舟あり

一とて舟あり舟あり舟あり舟あり舟あり
お別れにフイチセルの舟あり舟あり舟あり
とまひしとて海ははるる少くもさるる
舟あり舟あり舟あり舟あり舟あり舟あり
舟あり舟あり舟あり舟あり舟あり舟あり
舟あり舟あり舟あり舟あり舟あり舟あり

のありて海人その来を常食はひ蘇屋くもの
ゆへ苦無き〜くち製はす及水もすし椰子の
実の中はあまけと生ひ〜 衣類は生ひ此男
女も母移とて其椰子の毛を〜 純子まを
蘇屋^{クイ}〜ひ若うつむ〜はの種〜く〜ひ
家の椰子の毛を〜して〜少少を化〜を
い又椰子の毛を〜別〜入ひ〜を定ち〜を
中〜う〜を〜と〜と〜はひ〜**東國**〜
〜〜〜け〜ひ〜海遊〜〜〜
海〜ひ〜海遊〜〜ひ〜成の〜〜

三月のキユノコト新よ〜航も〜
亜細亞人今異うすひ月〜
〜**伊斯波**〜**耶**〜
〜

日中の西南はあつ〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜
〜

徳川二年四月... 此の人物は... 奉公を... 舟を... の甲... 利幹... け所... い... 又...

と... 形... い... の... て... 日... 人... 方... 供... フ...

と形じつとしてるらるるをヤリはらりすフイナセル

業とて帰し先業の船と名に四人がめははた

著しおまはひす三三ことと中へ業は管中と申すのる

フイナセルがははまのるまでにはたふ十月にま

アルバと申人志件同道守方おとあはれ又

入ははるる年已四内はく洲のははた

セルに保りひる又へつおうへ来りいせと申指たの

子子にお成居申し所病を治すに能はるるま

にカトるつ年のフイナセル宅に立居りてはたあ

ありはるる年又ちりせのるへお成ひそのる月デス

と申人よお成りれ舞形かふ同所出帆ははた

中へ海上測量をせしはたの私に女入斗りま

始終揮をせしち東はちあもしうアとライラこと

海よりおはるる水と浪のカナアリヤと申仲のる

はちお喜望の年と申りアここと申し海より免

と捕申るる方と申り新に女國能はれと海より

タラの根下を御しタイモウの月コウビヤこと

はははしはるるしとけ色る人お増お増お増

なまてふの斗り海よりお成りてはた

情に新コイ子や少海を舞はし中へははるる人

翌年申二月に又ツタギユニふみ十日十時
にヤ形ををか入らわテベス七ノ景物相見し一軍
將東出つ腕をより教し一或人今くまかひ女
を托まやうのり依はるるをどし一やんさくし
多し呂宋島来り舟利鞆より船乗りし海新に
航も中しにけ所入らぬ大屋をく船乗りたを
此所所の名をせりつとら中し西岸も洋は海
の多きをゆく言ふて物中し人物は西細無種
して清く入るてあまの英詰利の軍船あり
夥しく入津は信在中し七月にけわ出航又

日中乃仲島縣濱一南ノ宗又キエノエこりるを
月に出航南ノ宗翌酉年二月にせりつとら新し
名はふいスイスニヤ多航し一風俗之國の多し
言ふて新なる出航未申なる方ノ宗申行下喜
望之幸を言ふ成美に向いせりつとら帰航は実
にけ不折能い海航はかひは境に西岸に下り新利
鞆へ傳りし方折よられ有るをりかし一舟中
下婦人ホシる日中し海軍に此地はとて月七
日切りぐるに名もあし海軍にさしりし
何はあし日中の地はとての首にさしりし

中山のりりる自をいへ来る高帆あり航業ありのり
便りをもいへし帆は所いりや帆とてキヤリヤ
の洋を過り南アメリカノ岬をまるとけ帆方の人
のむいへん七尺乗人國と唱ひて一載
四月に南アメリカの内タコアナの候に帆はりけ所
イスパニヤと死そそ風信伊斯波ル那の海に
隨ち船をもの地をあらんとかり八日けり停泊あり
とと入帆はり北アメリカの内サセラセニコロと
中前と云はれり海に大候とてさうそあり
言ふそ一同中人を驚かしを信り中山其地あり

貨物も一夜に海をあらん斗りハカリ測りヤリ
幸新と云ふそとと陸にて馬を信り法を
旅をいへし言ふそとと船内若急を食をりのそと
の地を一夜の海に安泊しその地を記しあり
浪をきり中山と云ふ大川にたり南川中山北川
と云ふ所の地ありそと川にて合流を信り中山と
ととそと斗り海にありそと合流を信り中山と
ととそと斗り山と云ふ高き頂ありそとそと
の地を記しあり山ありそとと海ありそとと
合を信り所いへ海にありそとと人合を信り

在博奕國人今西直心大ニチ勝少シテ懐法宛
マモチ致されしものも百に一ニ一は山中ニテ虎を
見ヤシキヤ白斗リ侍らぬニ一合限ち急ニ城カ
元の毎リヤクリニトヨリサニコヤニロけ合山今ノオ
年オ北アメリカとメキシコと異論をニ遊ニ合裁
及シテ海軍ニ軍をニ括シテ波川下ニ城ニ時沙
合夥ニクニニ一ノノ年オ原シテ後法宛
船書と出ニ侍ニ城カ番キニ中後ノ是
昨今ノ合山ノオ城ヤシ西屏ニ屏ニ友ニ侍事ニ在
國ニ之ニ在シテ法宛ノ人ニ多ク使ノ好ニ以テ侍事

は日也カニ此系ニ侍事ニ来リ中ニ備本取来リ
後ノ十月ハハ月終同月来リロホノハナロハ友
母能ク帰ルニ志ニ一決定ハハ上陸神ニ寄ル
方ハアテ来リハ前大ニの侍ハハ一ノオモハハ
の善ニ一カ別原ノ人ニシテ在シ執侍ニウカハハ
新ヨリ来リ中ニ一オ軍斗リ臨在ハハウリニ一
百此備事ニ侍ニ在シ執事人ニヤトハハ
新ヨリ来リ一オ我ニ人オ集ル海軍ノ約語ハハハ
時方ハハ侍事ニテ有利加給ル入侍事ニ日也人
教人オテ来リハ強ニテ名ヲ来リ對面ハハハ

双方に海通し一に信託を交するに對して
させるるに付は信託の事一に所別對面
はう終お分り申し由け人紀伊本日言の摺掛
船大舟丸船匠吉市一との事と記し其りを
以て江戸出帆神戶新風波、深いけ船子と記し
す。ちよ之人の月八人の魯西無ヒ夕ホラミカ唯此人古
連居いけ人せだ、海船の約束は其の船主
ゆきまもちんを要し今暫くは所、當り友
候中まゝに自航中、論一はた先その信託の日
をそく、追氣りしはた先空一く海しり、人、懲りしり

一向事考ふは此間止る事とゆも、錢、金、事、此、所
より亦利鞆舞、船は便り、を乞、船、合、人、上、記、信
新、事、此、所、船、中、の、人、と、い、底、邊、ひ、い、ま、出、來、し、自
紀、伊、人、少、人、何、事、日、也、と、道、り、異、山、柳、船、を、懸、金
系、此、所、信、託、を、申、し、い、し、少、陸、は、い、そ、よ、り、生、信、託、
も、い、ナ、口、の、儀、と、て、且、い、少、人、官、財、事、者、に、奉、命、は、い
け、人、橋、村、を、席、記、して、深、流、は、い、俣、藤、西、船、の
反、抱、死、り、け、交、其、の、便、記、を、申、し、海、船、の、よ、し
も、い、少、事、考、ふ、め、の、事、記、し、カ、ク、と、申、其、人、の、販、賣、
と、自、命、の、取、付、た、る、事、を、言、し、一、あ、ま、し、瓦、一、海、船、は

友らウ米ノ役人トモ東ニ取中トモ言林を以て中
入し又取中ノ役人トモ東ニ取中トモ言林を以て中
許ノ取中トモ東ニ取中トモ言林を以て中
るを各助トモ東ニ取中トモ言林を以て中
取中トモ東ニ取中トモ言林を以て中
又北利利幹メアトモ東ニ取中トモ言林を以て中
人ノ取中トモ東ニ取中トモ言林を以て中
ノ取中トモ東ニ取中トモ言林を以て中
善利トモ東ニ取中トモ言林を以て中

ともの少取を渡羅又入目也とてく東らゆりて
あゝ傳多事也合もくし子是を務入て文字取
むとてく取帆西のちと東の二年亥の二月取帆
仲之里斗利也此はの少取をわらうし人字取
地方は傳多事也合もくし子是を務入て文字取
るは地方は傳多事也合もくし子是を務入て文字取
系は傳多事也合もくし子是を務入て文字取
フイチセル方へ取帆と東の二年亥の二月取帆
礼射トモ東ニ取中トモ言林を以て中
取中トモ東ニ取中トモ言林を以て中

言をともて又書状を毎に書留めフイッモアリらおれ
ウツホノふも在サニヤラエルト申市利軒人子先
せし之人は宛あり琉球迄到るに記ありて
仰り申す方宮長らにば殿中ゆり何事使記を
タリて御物の義も女是のいよふお兼中山フイッ
モアリも海を流しお別まて人余上陸の伴をん
届せ成亥のち、民帆はゆりての摩大に切と申
前まで元酒ぶら飲し迄、丁室の扱ひも、渡舟
梅は故人申すは是も有るに、海味は御舟に接
し、丁室も元酒扱ひありて、お兼の月、粟も酒一升

取付を法和玉乃、拾單との事、申す事あり
下、拾、同七月、上、北、同、北、同、所、出、航、同、右、向、
薩州、山川、渡り、若、名、名、音、唐、名、渡、り、沖、城、は、名、
連、江、の、尾、名、し、了、所、と、名、名、金、沙、士、は、役、人、平、法、
及、人、の、目、録、本、に、あ、り、法、師、自、又、羽、成、深、入、禮、奉、
也、御、申、惟、子、名、も、知、り、洋、飲、之、御、舟、同、其、名、
長、崎、止、ま、お、立、上、月、節、名、法、師、を、乃、所、法、師、創、り、
お、あ、り、也、法、師、味、を、一、再、船、付、り、揚、り、為、入、ら、
仰、舟、名、在、ま、の、所、人、子、六、月、止、り、於、法、師、創、り、
漢、に、為、ゆ、り、名、一、白、紙、を、取、豆、扱、一、粒、除、入、る、也、

市利新の丸めは、英略利、羊知、は英略利、北の
 伯、伊斯波、尔、那、羊、知、は、は、少、國、は、は、は、
 何、方、は、屬、は、は、は、は、は、は、は、は、
 去、中、一、改、令、也、用、い、中、い、キ、ニ、カ、チ、ナ、リ、は、未、の、市、の、利、と、
 從、者、を、さ、し、先、は、林、い、と、未、い、は、是、に、
 中、い、其、口、使、と、中、い、名、を、さ、し、美、人、と、て、
 金、銀、の、飾、り、首、い、冠、と、て、馬、の、と、と、坐、し、は、未、は、
 一、と、為、ま、て、間、は、沙、地、は、未、は、未、は、未、は、未、は、
 と、他、り、中、い、高、を、一、万、の、校、令、使、入、津、は、万、を、取、り、
 口、津、と、て、は、未、は、は、は、は、は、は、は、は、は、
 一、と、為、ま、て、間、は、沙、地、は、未、は、未、は、未、は、未、は、
 と、他、り、中、い、高、を、一、万、の、校、令、使、入、津、は、万、を、取、り、
 口、津、と、て、は、未、は、は、は、は、は、は、は、は、は、

交易、海、の、中、食、の、者、と、て、製、作、し、は、は、は、は、
 衣、被、の、市、利、新、の、肉、の、肉、袖、は、は、は、は、は、は、
 と、ま、い、は、は、い、呂、宋、と、ま、い、編、た、る、は、は、は、は、
 は、未、は、い、中、い、六、人、も、と、い、は、は、は、は、は、は、
 と、他、り、と、ま、く、市、利、新、の、肉、の、肉、袖、は、は、は、は、
 と、ま、い、は、は、い、石、を、取、り、は、は、は、は、は、は、
 と、ま、い、は、は、い、石、を、取、り、は、は、は、は、は、は、
 一、北、市、利、新、の、人、物、重、細、一、也、は、は、は、は、
 口、津、と、て、は、未、は、は、は、は、は、は、は、は、は、

日打中の為に... 軍に於て... 燒玉... 此の如く...

一 毎年六月四日... 人亦知不仕... ねはの依し... 三三... 一 毎年...

一 毎年... 親必... たらん... なる後...

一 罪人の... 仕の... あり...

一 人を... 守り... 守り...

一 吾らと神の御人々を奉りしめ給ふべき世の御人々

事一向善く申すべし

一 主と神我々の御心は清くし人々には其の心は清くし

御心も人の御心も清くし神の御心も清くし

御心も清くし神の御心も清くし

第二の巻

第一王御北市利鞆 風土異なり給はる御心も清くし

一 市利鞆なる人幼少し老を蒙りて男女中より海を渡り

市利男なる衣服也る髪を剃りて眉を剃りし御心の清くし

て清くし

一 婚禮の儀の仲人多しは男女の通ふことと神

の御心の清くし一は御心の清くし一は御心の清くし

出の御心の清くし一は御心の清くし一は御心の清くし

と守りし御心の清くし一は御心の清くし一は御心の清くし

夜一の御心の清くし一は御心の清くし一は御心の清くし

と守りし御心の清くし一は御心の清くし一は御心の清くし

家も御心の清くし一は御心の清くし一は御心の清くし

御心の清くし

一 女子なりて御心の清くし一は御心の清くし一は御心の清くし

外にあらざるもふどやんはとていひ中ひ

一舟船をさぐる歐羅巴に働い中ひ平に美らゆゆき
船をさぐる美らゆゆき中ひ平に美らゆゆき
さぐる美らゆゆき中ひ平に美らゆゆき
さぐる美らゆゆき中ひ平に美らゆゆき

一陸路運送車七馬七用ひ中ひ美らゆゆき
ゆゆき運送車七馬七用ひ中ひ美らゆゆき
ゆゆき運送車七馬七用ひ中ひ美らゆゆき
ゆゆき運送車七馬七用ひ中ひ美らゆゆき
ゆゆき運送車七馬七用ひ中ひ美らゆゆき

一陸路運送車七馬七用ひ中ひ美らゆゆき
ゆゆき運送車七馬七用ひ中ひ美らゆゆき
ゆゆき運送車七馬七用ひ中ひ美らゆゆき
ゆゆき運送車七馬七用ひ中ひ美らゆゆき
ゆゆき運送車七馬七用ひ中ひ美らゆゆき

一洋中より蘇を捕ひ美らゆゆき
蘇を捕ひ美らゆゆき中ひ美らゆゆき
蘇を捕ひ美らゆゆき中ひ美らゆゆき
蘇を捕ひ美らゆゆき中ひ美らゆゆき
蘇を捕ひ美らゆゆき中ひ美らゆゆき

一 海中にて逐向家々々々此所は乃天の風はまき家
のりく子居中いウラホー近海常の母又のりよく吹
風強手亦の口所いウラキーらま廻く申一は後
るは所い

一 舟利轉南地より山をさうく終て舟中へま一
棧より十里斗りは所い乞取切後いりて航海の便
利よりくは方切めく事昔我成中山所其灣は
古の如く遊るく且遊る湧出の所まき切めき
い多キ口乃方備来りて多く地を捨下いり事
よて止り

古外修て亦好有くは乃天悠々十二年の決
活を急らる一白の事を傳書其後止り
海外の事其てい事乃は乃天悠々入りて
古記一中山

安政三辰年九月写
慶應元丑年五月再写

漂客傳話 終

新刊 文部二十

別ニ貞政ノ字計
改羅巴文字同計

此ノ^キ 丈^キ 四^キ 林^キ ぬ^キ

小^キ 子^キ 乙^キ 申^キ 比^キ

花^キ 花^キ 花^キ 花^キ 花^キ

乃^キ 乃^キ 乃^キ 乃^キ 乃^キ

乃^キ 乃^キ 乃^キ 乃^キ 乃^キ

→

→

